

メキシコ政治情勢（8月）

〈概要〉

【内政】

- ・ 8日、7月1日の大統領選挙で勝利を収めたロペス・オブラドール候補に当選証書が授与された。
- ・ 9日、ペニャ・ニエト大統領はロペス・オブラドール次期大統領と会談を行った。
- ・ 20日、ペニャ・ニエト大統領はロペス・オブラドール次期大統領と会談を行い、正式な政権移行プロセスが開始された。
- ・ 21日、ロペス・オブラドール次期大統領は次期政権における大統領府主要スタッフを発表した。
- ・ 23日、9月1日に開会する連邦上下両院第64回議会の議席配分が発表された。
- ・ 29日、連邦上下両院で第64期両院の通常会期招集前の準備会合が開催され、両院執行部が選出された。

【外交】

- ・ 2日、ロペス・オブラドール次期大統領が駐墨中国大使と会談を行った。
- ・ 9日、ビデガライ外相はワシントンにおいてポンペオ米国国務長官と会談を行った。
- ・ 11日、メキシコ外務省は、ベネズエラで生じた事態に憂慮の意を表明するリマ・グループ声明を発表した。
- ・ 17日、河野外務大臣が訪墨し、日墨外相会談及びロペス・オブラドール次期大統領への表敬を行った。
- ・ 17日、ワシントンを訪問中のビデガライ外相はポンペオ米国国務長官と会談を行った。
- ・ 28日、ロペス・オブラドール次期大統領はモラレス・グアテマラ大統領とチアパスにおいて会談を行った。
- ・ 29日、ロペス・オブラドール次期大統領はラテンアメリカ・カリブ諸国の駐墨大使らと会談を行った。
- ・ 30日、ロペス・オブラドール次期大統領はアジア太平洋諸国の駐墨大使らと会談を行った。

〈内政〉

1 ロペス・オブラドール候補への当選証書授与

8日、墨連邦選挙裁判所（TEPJF）は、7月1日の大統領選挙で勝利を収めたロペス・オブラドール候補に対し、次期大統領としての当選証書を手交したところ、TEPJFホームページ上に掲載されたプレスリリースに基づく当選証書授与式の概要は以下のとおり。

(1) 8日、オタロラTEPJF長官は、7月1日の大統領選挙において最大の票を獲得したロペス・オブラドール候補に対し、次期大統領としての当選証書を授与した。「ロ」候補は本年12月1日に大統領に就任する。

(2) オタロラTEPJF長官は、今回で4度目となるTEPJFによる当選証書の授与に関し、憲法の価値及び法の支配というメキシコ国民の約束及び民主主義の強化を表すものであると述べた。

(3) 当選証書を受け取ったロペス・オブラドール次期大統領は、TEPJF裁判官を含む司法府、立法府及び国の全ての独立機関による決議及び裁定に対し、決して口出しするようなことはしないと述べた。また、それぞれの機関が互いに尊重し合い、独立して職務を遂行することにより国家及び民主的な法の支配が強化されていくだろうと述べた。

(4) 授与式には、アギラル国家最高裁判所長官、コルドバ国家選挙機関長官、ロモ連邦下院議長、コルデロ連邦上院議長、アクーニャ国家情報アクセス機関長官及び次期政権閣僚候補等が出席した。

2 ペニャ・ニエト大統領とロペス・オブラドール次期大統領の会談

9日、ペニャ・ニエト大統領は、国立宮殿においてロペス・オブラドール次期大統領と会談を行ったところ、墨大統領府プレスリリース及びロペス・オブラドール次期大統領のポータルサイトでの発表に基づく概要は以下のとおり。

(1) 会談の概要（大統領府プレスリリースより）

(ア) 8月9日午後、ペニャ・ニエト大統領は国立宮殿において、ロペス・オブラドール次期大統領との間で連邦行政府の秩序立った移行を行うための対話を行った。

(イ) 会談において、ペニャ・ニエト大統領は、正式に開始した政権移行プロセスにおいて、墨政府はロペス・オブラドール次期大統領が必要とする支援をする用意があると述べた。また、ペニャ・ニエト大統領は、現政権の最後の日まで全力で任務を遂行していくと述べた。

(ウ) ペニャ・ニエト大統領は、ロペス・オブラドール次期大統領に対し、次期政権における公共治安省の設立、連邦検察総局の統合等の次期政権のイニシアチブについて第64回議会において議論を始めることにより、次期政権をサポートしていくと述べた。

(エ) また、ペニャ・ニエト大統領は、現政権を秩序立ったそして効率的な形で終え、次期政権がメキシコ国民のためにより良い政権運営を始めることができる環境を整えるために、連邦政府はロペス・オブラドール次期大統領及びその協力者チームと緊密なコミュニケーションを維持していかなければならないと述べた。

(2) ロペス・オブラドール次期大統領による会談後の記者会見（次期大統領ポータルサイトより）

(ア) ペニャ・ニエト大統領とロペス・オブラドール次期大統領との対話は、礼儀正しさと敬意をもって、非常に良い雰囲気で行われた。

(イ) 次期大統領は、今次会談において、政権移行が引き続き安定的で静穏に、また信頼をもって行われるべく、経済面、金融面、政治面、また、国民の大きな懸念事項となっている治安や安心できる生活の確保に関する面について、影響を及ぼさないようにすることにつき確認したと述べた。

(ウ) また、12月1日の次期政権発足後に公共治安省が設置されるべく、連邦議会次会期において、関連法の改正案が提出されると述べた。

(エ) ロペス・オブラドール次期大統領は、次期連邦検察庁長官、汚職対策検察庁長官及び選挙検察庁長官の選出について手続を開始する目的で、8月20日に現政権と次期政権との会合が行われると発表した。

3 政権移行プロセスの開始

8月20日、ペニャ・ニエト大統領は国立宮殿においてロペス・オブラドール次期大統領と会談し、政権移行プロセスが正式に開始された。同会談後、ペニャ・ニエト大統領及びロペス・オブラドール次期大統領は、各々の閣僚及び次期閣僚を伴って記者会見を行ったところ、主要政策についての双方の立場は以下のとおり。

(1) 教育改革

(ア) ペニャ・ニエト大統領

(i) 教育改革は極めて重要。明白なことは、教育改革を促進した政権が存在し、右とは異なった見解を有した政権が誕生しようとしていることである。我々は自身が進めてきた教育改革を守ってきたが、教育改革についての今後の決定についても完全に尊重されなければならない。

(i i) まだ詳細は分からないが、次期政権及び議会において教育分野及びその法的枠組みに修正が加えられることになるであろう。

(イ) ロペス・オブラドール次期大統領

現在行われている教育改革を中止する。法律家が述べているとおり、適切な時期及び方法によって教育改革を中止するための措置を提示し、新たな状況に適した法的枠組みを有する（現在のものとは）異なった計画を発表する予定。

(2) メキシコ市新空港建設計画

(ア) ペニャ・ニエト大統領

(i) 本件計画については、参加している種々の建設会社との間で契約が存在しており、本件計画は、当該契約に従ってメキシコ合衆国の責任として引き続き進められている。

(i i) このように、新空港建設は継続されているが、ロペス・オブラドール次期大統領が発表した現在の計画を継続するか否かの選択肢を問う仕組み（国民投票）を尊重する

(イ) ロペス・オブラドール次期大統領

本件計画については、国民投票に付する。国民には2つの選択肢があり、有権者全員が当該国民投票に参加し、その意見を表明して欲しい。我々は客観的且つ真実の情報を提供

し、不偏の立場を維持する。当該国民投票は本件問題を解決するための民主的な手続である。

(3) ペニャ・ニエト現政権の評価

(ア) ペニャ・ニエト大統領

メキシコを政治的安定（調和及び社会的平和）を有した国とすることが最も重要。メキシコには治安の悪い地域が存在しており、また、治安が更に悪化している地域が存在することは認識。治安問題は当国の最大の課題の1つであり、次期政権における課題ともなるであろう。治安問題に関し、自身の政権において一定の前進はあったが、十分な成果が出なかったことを認識。

(イ) ロペス・オブラドール次期大統領

(i) 現政権の評価については、メキシコ国民が行うことになる。ペニャ・ニエト大統領が第6回大統領年次教書においてその成果と課題について説明することになると思うが、最終的にはメキシコ国民が評価することになるであろう。

(i i) 政権移行プロセスにおいて、ペニャ・ニエト大統領と争うつもりはない。我々はその立場を固め、選挙キャンペーンにおいて約束を行っており、政権移行期間に宣伝活動を行う必要はない。

(4) 新たな検事総長等の任命

(ア) ペニャ・ニエト大統領

新たな検事総長については、連邦上院からの提案されるべきものであるが、まだかかる提案はなされておらず、自分としては特段の意見はない。

(イ) ロペス・オブラドール次期大統領

(i) (新政権発足の際には) 検事総長、汚職担当検事、選挙担当検事等が任命される予定。

(i i) 次期国防相／海軍相については、現在検討を行っている。現在の防衛相／海軍相と会い、その意見を聞く予定。両省の現役の高官が候補者として検討される。新政権発足前に誰が次期国防相／海軍相となるか発表する予定。

(5) ゴルディージョ全国教職員組合（S N T E）前委員長の釈放

(ア) ペニャ・ニエト大統領

本件は行政府の判断ではなく、独立した組織である連邦検察庁（P G R）及び司法府の判断である。

(イ) ロペス・オブラドール次期大統領

新政権においてゴルディージョ前委員長にポストを与えるつもりはないが、ゴルディージョ前委員長はメキシコ国民として当然にその法的権利を行使することができる。

4 次期大統領府主要スタッフの発表

21日、ロペス・オブラドール次期大統領は、次期政権における大統領府主要スタッフ7名を発表したところ、同次期大統領公式ポータルサイト及び当地報道に基づく概要は以

下のとおり。

- ・アルフォンソ・ロモ次期大統領府長官
- ・アレハンドロ・エスケル次期大統領秘書官
- ・ガブリエル・ガルシア次期大統領府開発計画調整官
- ・ラサロ・カルデナス次期大統領府筆頭顧問
- ・セサル・ヤニェス次期大統領府政策・政府調整官
- ・ヘスス・ラミレス次期大統領府広報局長
- ・ライムンド・アルティス次期大統領府デジタル戦略調整官

5 連邦上下両院議会議席配分の発表

21日、国家選挙機関（INE）は、7月1日に実施された連邦上下両院議会議員選挙の比例代表議席（上院32議席、下院200議席）の配分について承認し、8月23日にINE理事会により同議席配分が批准されたところ、最終的な連邦上下両院議会の議席配分は以下のとおり（ロペス・オブラドール次期大統領の選挙同盟である「共に歴史を作ろう」が上下両院議会において各々過半数を占める結果となった。）。なお、新同盟党及び社会結集党（PES）は、7月1日の大統領選挙及び連邦上下両院議会議員選挙のいずれにおいても、3%未満の得票率であったため、憲法第54条2項及び選挙機関及び手続法第94条の規定により、政党登録を失うこととなった（比例代表の議席についても配分されない。）。

（1）連邦上院議会（全128議席）

（ア）政党別獲得議席数

国家再生運動（Morena）	55議席（選挙区42議席、比例区13議席）
国民行動党（PAN）	23議席（選挙区17議席、比例区6議席）
制度的革命党（PRI）	14議席（選挙区8議席、比例区6議席）
社会結集党（PES）	8議席（選挙区8議席、比例区0議席）
民主革命党（PRD）	8議席（選挙区6議席、比例区2議席）
市民運動（MC）	7議席（選挙区5議席、比例区2議席）
労働党（PT）	6議席（選挙区5議席、比例区1議席）
緑の党（PVEM）	6議席（選挙区4議席、比例区2議席）
新同盟党	1議席（選挙区1議席、比例区0議席）

（イ）選挙同盟別議席配分

「共に歴史を作ろう」（Morena-PT-PES）	69議席
「メキシコのための前進」（PAN-PRD-MC）	38議席
「全てはメキシコのために」（PRI-PVEM-新同盟党）	21議席

（2）連邦下院議会（全500議席）

Morena	191議席（選挙区106議席、比例区85議席）
PAN	81議席（選挙区40議席、比例区41議席）

P T	6 1 議席 (選挙区 5 8 議席、比例区 3 議席)
P E S	5 6 議席 (選挙区 5 6 議席、比例区 0 議席)
P R I	4 5 議席 (選挙区 7 議席、比例区 3 8 議席)
MC	2 7 議席 (選挙区 1 7 議席、比例区 1 0 議席)
P R D	2 1 議席 (選挙区 9 議席、比例区 1 2 議席)
P V E M	1 6 議席 (選挙区 5 議席、比例区 1 1 議席)
新同盟党	2 議席 (選挙区 2 議席、比例区 0 議席)

(イ) 選挙同盟別議席配分

「共に歴史を作ろう」(Morena-P T-P E S)	3 0 8 議席
「メキシコのための前進」(P A N-P R D-MC)	1 2 9 議席
「全てはメキシコのために」(P R I-P V E M-新同盟党)	6 3 議席

6 連邦上下両院議会執行部の選出

2 9 日、9 月 1 日の連邦議会の開会に先立って、連邦上下両院で第 6 4 期両院の通常会期招集前の準備会合が開催され、両院執行部が選出されたところ、概要は以下のとおり。

(1) 連邦上院執行部 (Mesa Directiva)

(ア) 議長 (Presidente)

・マルティ・バトレス・グアダラマ (Marti BATRES GUADARRAMA) (国家再生運動 (以下 Morena))

(イ) 副議長 (Vicepresidentes)

・第 1 副議長 モニカ・フェルナンデス・バルボア (Monica FERNANDEZ BALBOA) (Morena)

・第 2 副議長 ラファエル・モレノ・バジエ (Rafael MORENO VALLE) (国民行動党 (以下 P A N))

・第 3 副議長 ホルヘ・ラミレス・マリン (Jorge RAMIREZ MARIN) (制度的革命党 (以下 P R I))

(ウ) 書記 (Secretarios)

・アントレス・バスケス・アラトレ (Antares VAZQUEZ ALATORRE) (Morena)

・ベロニカ・デルガディージョ (Veronica DELGADILLO) (「市民運動」(以下 MC))

・ナンシー・デ・ラ・シエラ (Nancy DE LA SIERRA) (労働党 (以下 P T))

・フアン・セペダ・エルナンデス (Juan ZEPEDA HERNANDEZ) (民主革命党 (以下 P R D))

(2) 連邦下院執行部

(ア) 議長

・ポルフィリオ・ムニョス・レド (Porfirio MUNOZ LEDO) (Morena)

(イ) 副議長

・第1副議長 ドロレス・パディエルナ・ルナ (Dolores PADIERNA LUNA) (Morena)
・第2副議長 マルコ・アダメ・カスティージョ (Marco ADAME CASTILLO) (PAN)

・第3副議長 ドゥルセ・マリア・サウリ (Dulce Maria SAURI) (PRI)

(ウ) 書記

・カルラ・アルマサン・ブルゴス (Karla ALMAZAN BURGOS) (Morena)
・マリアナ・ドゥンヤスカ・ガルシア (Mariana Dunyaska GARCIA) (PAN)
・サラ・ロチャ・メディーナ (Sara ROCHA MEDINA) (PRI)
・エクトル・クルス・アパリシオ (Hector CRUZ APARICIO) (PES)
・アナ・ガブリエラ・ゲバラ (Ana Gabriela GUEVARA) (PT)
・リリア・ビジャフエルテ・サバラ (Lilia VILLAFUERTE ZAVALA) (PRD)
・リンディアナ・ブガリン (Lyndiana BUGARIN) (緑の党)
・カルメン・マシアス・ラバゴ (Carmen MACIAS RABAGO) (MC)

〈外交〉

1 ロペス・オブラドール次期大統領と駐墨中国大使の会談

2日、当地「レフォルマ」他主要各紙は、ロペス・オブラドール次期大統領と邱小琪 (Qiu Xiaoqi) 駐墨大使との会談につき報じているところ、概要以下のとおり。

(1) 2日午前中、ロペス・オブラドール次期大統領はメキシコ市ローマ地区にある政権移行事務所において、邱大使と約35分間会談した。

(2) 同会談の内容につき、エブラル次期外相候補は記者会見の場で次のとおり述べた。

(ア) 本件会談では、両国間の通商関係や協働案件等につき主に話し合われた。ロペス・オブラドール次期大統領からは墨中間に現存する貿易不均衡につき問題提起し、墨側が抱える貿易赤字の縮減を課題視している旨発言。邱大使からは、中国として右に向け取り組む用意があると応じた。また、同大使からは、中国政府としてロペス・オブラドール次期政権と貿易・インフラ開発分野を中心に関係を強化したいとの意向を表明したが、インフラ開発案件に関し具体的な話し合いは行われなかった。他方、墨中自由貿易協定交渉の開始可能性については、まだそうした段階にはないため議論の俎上に上らなかった。

(イ) 墨中間には投資、通商、開発分野における共通課題・協働案件につき協議するためのハイレベル・グループがあり、邱大使は政権移行チームへ右への参加を慫慂した。これには、エブラル次期外相候補、マルケス次期経済相候補、ウルスア次期大蔵公債相候補が参加する見込みである。また同大使はロペス・オブラドール次期大統領に対し、本年11月5日に上海で開催される貿易博覧会に招待したい旨述べた。右には、エブラル次期外相候補及びマルケス次期経済相候補が参加する方向で考えている。同博覧会では、メキシコを含む10カ国ほどが特別招待国とされている。

(ウ) ロペス・オブラドール次期大統領は、中国をメキシコにおける自動車産業や航空宇

宙産業の強化における協力相手と捉えている。また、中国は国外観光客の支出額において世界最大規模の国であるが、同国からメキシコを訪れる観光客はまだ非常に少ない。

(エ) なお、邱大使は次期大統領に対し、その当選に係る習近平国家主席からの祝意を伝えるとともに、中国の国内市場、インフラ、貿易の発展を内容とする書籍を贈呈した。

(オ) 本件会談は、ロペス・オブラドール次期大統領が諸外国の当国駐在大使と個別に行っていく会談の端緒である。

2 ビデガライ外相とポンペオ米国国務長官の会談

9日、墨外務省は、ビデガライ外相とポンペオ米国国務長官の会談についてプレスリリース(No.225)を発表したところ、概要は以下のとおり。

・現在、NAFTA再交渉が行われている米国ワシントンに出張中のビデガライ外相は、ポンペオ米国国務長官と移民問題及びNAFTA再交渉の状況を含む他の二国間の課題について話し合った。

3 ベネズエラ情勢に関するリマ・グループ声明

11日、メキシコ外務省は、ベネズエラで生じた事態に関するリマ・グループ声明を発表したところ、概要は以下のとおり。

(1) リマ・グループのメンバー国であるアルゼンチン、ブラジル、カナダ、コロンビア、コスタリカ、チリ、グアテマラ、ガイアナ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、パラグアイ及びペルーの各国政府は、ベネズエラ政府に対し、8月4日にベネズエラ国家警備隊創設81周年記念式典において生じた事態について、法の支配と人権を尊重し、公平に事実を明らかにするため、独立した、徹底かつ透明性のある調査を行うよう緊急に要請する。

(2) また、最近行われているベネズエラ国会議員に対する抑圧行為に対し、政治的な異議申し立て行為を追及及び抑圧するために、8月4日の事態について操作しようとするあらゆる試みを非難する。

(3) リマ・グループは、レケセンス下院議員が予備捜査が行われぬまま、違法かつ恣意的に逮捕されたこと、ボルヘス下院議員に逮捕状が発行されたことは、ベネズエラ憲法(第200条)、米州人権条約、米州人権宣言、米州機構憲章及びその他の適用可能な国際的な法律文書によって保護されている彼らの国会議員としての権利及び身分保障、特権の公然たる侵害であり、刑事司法のデュープロセス及び司法制度と人権尊重に係る国際法の侵害を断固として非難し拒否する。

(4) (ベネズエラ政府が) 政治的に対立する者を追及する目的で治安機構及び司法制度を利用することは、ベネズエラにおいて国民の意に反する民主主義の崩壊及び憲法違反が生じていることを改めて明白にするものであり、深い憂慮の意を表す。

(5) ベネズエラにおける全ての政治囚の状況に対する深い憂慮の意を改めて表し、右政治囚の即時釈放を求めつつ、同国政府に対し、全ての同国市民の政治的自由を保障し、自

由で透明性のある民主的な選挙を招集するよう緊急に呼びかける。

(6) アルゼンチン、ブラジル、カナダ、コロンビア、コスタリカ、チリ、グアテマラ、ガイアナ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、パラグアイ及びペルーの各国政府は、兄弟国（ベネズエラ）を襲っている深刻な危機の解決法を見いだせるのはベネズエラ人のみであることを繰り返しつつ、同国において民主的な制度機構、人権の尊重及び法の支配の完全な有効性が再建されることに貢献する行動及びイニシアチブを今後も継続するとの約束を改めて確認する。

4 河野外務大臣の訪墨

17日、河野外務大臣が訪墨し、日墨外相会談及びロペス・オブラドール次期大統領への表敬を行った。墨外務省及びロペス・オブラドール次期大統領は、プレスリリースを各々発出したところ、概要は以下のとおり。

(1) 日墨外相会談

(ア) 17日、日墨外交関係樹立130周年の枠組みの中で、河野外務大臣が2回目のメキシコ訪問を行った。

(イ) デ・イカサ筆頭外務次官は、ワシントンから電話で河野大臣と会談を行ったビデガラ外相の代行として河野大臣を迎え、日墨関係の向上のために働いていくことを約束した。

(ウ) 河野大臣は、自然災害などに立ち向かうためのメキシコと日本の強固な友好関係及び連帯について言及した。また、今次会談の出席者は高い水準で行われている二国間政策対話について賞賛するとともに、経済関係及び協力関係の重要性についても言及した。さらに、(メキシコの出席者は)メキシコにおける日本からの投資の増大について称えるとともに、メキシコ政府にとっては日本からの投資を守ることが優先事項であると強調しつつ、日本企業のメキシコに対する信頼に感謝すると述べた。

(エ) 会談において、たとえば核軍縮等、両国が共通性（共通の関心）を有する幾つかのグローバルなテーマについて意見交換がなされた。メキシコ側は、地域の平和を達成するために、南北対話プロセス及び他の国々が建設的な形で関与することにメキシコとして関心を有することを繰り返し表明した。

(オ) 今次会談には、ルイス・カバーニャス多国間問題・人権担当外務次官、サモラ大臣室長及びガルシア・ロペス国際開発協力庁長官が同席した。

(カ) 日本は、メキシコにとって第4位のビジネスパートナーであり、アジア太平洋地域での主要な投資国である。

(2) ロペス・オブラドール次期大統領への表敬

(ア) ロペス・オブラドール次期大統領は、自身のツイッターにおいて、“本日、河野外務大臣と対話を行った。会談では、経済協力、貿易、国民保護（地震に対する予防策）、多国間機構への参加、紛争の平和的解決、国民の独立性及び自決権等の議題について話し合っ

た。”と述べた。

(イ) 記者発表において、エブラル次期外相候補は、会談はとても和やかな雰囲気で行われたと述べ、河野大臣は、日本の関心はメキシコとの近しい関係をさらに深めることだと述べたと説明した。

(ウ) エブラル次期外相候補は、今次会談において、(メキシコが) 他国との間で有する中でも最も重要な協力である日墨間の国民保護の議題について話し合われたと述べた。特に、防災センターにおける国際協力機構(JICA)による国民保護に関する訓練及び研修について言及した。日本は世界的にも最も進んだ国民保護のためのシステムを有している国であり、当該分野での協力は長年行われているが、さらにこれらの協力を拡大したい旨述べた。

(エ) また、ロペス・オブラドール次期大統領は、エブラル次期外相候補に対し、ドゥラソ次期公共治安相候補及び次期連邦国民保護庁長官候補とともに、本年10月に日本訪問を実現するよう、要請した。

(オ) エブラル次期外相候補によると、今次会談において、日本が国連の機能強化について好意的な見方をしていることや、メキシコはその人口の多さだけではなく、経済的、文化的、国際関係及び政治的にも影響力のある国であるので、メキシコが国連安全保障理事会に常に参加できるようにすべきであると考えられている旨述べられた。また、河野大臣が、日本が2022年からの安保理理事国となるための働きかけを行っていく旨言及したと述べた。

(カ) また、今次会談では、TPPの署名を受け、貿易及びテクノロジーの分野においてメキシコがその重要性を増すことにつき日本は大きな期待と関心をもっており、メキシコ側のテクノロジーに関するアジェンダが提示されれば、技術移転を促進させる用意がある旨話し合われた。

5 ビデガライ外相とポンペオ米国国務長官の会談

17日、ビデガライ外相は、NAFTA再交渉に参加するため訪問中のワシントンにおいて、ポンペオ米国国務長官と会談を行い、治安問題や親と引き離された移民の子供達の状況について話し合った。会談において、両者は現在及び将来の二国間関係について、またNAFTA再交渉の進捗状況について話し合った。

6 ロペス・オブラドール次期大統領とモラレス・グアテマラ大統領の会談

28日、ロペス・オブラドール次期大統領は、チアパス州トゥクストラ・グティエレスにおいて、モラレス・グアテマラ大統領と会談を行った。ロペス・オブラドール次期大統領の公式ポータルサイトにおいて発表されたプレスリリースに基づく同次期大統領の主な発言は以下のとおり。なお、当地報道によると、今次会談にはメキシコ側からエブラル次期外相、ベラスコ・チアパス州知事及びエスカンドン次期チアパス州知事、グアテマラ側からホベル・グアテマラ外相が同席した。

(1) 8月28日、ロペス・オブラドール次期大統領は、チアパス州トゥクストラ・グティエレスのチアパス州立自治大学において、モラレス・グアテマラ大統領と会談を行った。今次会談において、ロペス・オブラドール次期大統領は、北米と中米が協力し合い、地域の開発を通して移民問題に立ち向かうことが出来ると強調した。

(2) ロペス・オブラドール次期大統領は、移民問題に関し、これまでのように国境地帯の武装化など武力で立ち向かうのではなく、移民問題の原因に対処し、より良い生活環境を整えることで、人々が強制的に移民しなければならない現在の状況から、人々が移民を一つの選択肢として選べるような状況にしなければいけないと述べた。また、そのためには、自分が生まれた国で家族とともに幸せに暮らせるように、製造業の促進、雇用の創出などのメキシコ及びグアテマラの開発を促進することが重要であると述べた。

(3) 同次期大統領は、かかる問題を解決するため、米国、カナダ、メキシコ及び中米諸国が共同で統合的な開発のためのプロジェクトを策定、出資及び実施する旨述べた。また、移民の数を減少させることを目的とした当該プロジェクトを実施するため、各国はその経済規模に応じ、資金を拠出すると述べた。

(4) ロペス・オブラドール次期大統領は、モラレス大統領との今次会談は良い雰囲気の下で行われ、生産的なものであったと述べた。両者は、意見交換を行うとともに、統合的な開発のために両国間で実施すべき協力について話し合った。また、両国政府が共同で実施可能な統合的な開発及び協力プロジェクトについて協議するため、今後も会談を行い、また、両国外務省の間で引き続き話し合いを行うことを確認した。

(5) ロペス・オブラドール次期大統領は、12月1日の大統領就任式にモラレス大統領を招待し、同大統領が出席を承諾した旨述べた。またロペス・オブラドール次期大統領は、大統領就任後に海外を訪問することになった場合、グアテマラは最初に訪れる国の一つになるだろうと述べた。

7 ロペス・オブラドール次期大統領とラテンアメリカ・カリブ諸国駐墨大使の会談

29日、ラテンアメリカ・カリブ諸国21カ国の駐墨大使及び臨時代理大使が、政権移行事務所において、ロペス・オブラドール次期大統領を表敬訪問した。ロペス・オブラドール次期大統領の公式ポータルサイトに発表された会談の概要は以下のとおり。

(1) ロペス・オブラドール次期大統領は、会談において、ラテンアメリカ・カリブ諸国と常に結束し、協力していく旨述べた。また、次期政権において、内政不干涉、民族自決、紛争の平和的解決及び開発のための協力という4つの原則のもと、外交を展開すると述べた。

(2) 同次期大統領は、自身のフェイスブックページにおいて、ラテンアメリカ・カリブ地域17カ国の大使及び4カ国の臨時代理大使と会談した喜びを伝える動画を投稿した。

(3) ラテンアメリカ・カリブ諸国グループの代表であるガイ駐墨ハイチ大使は、ロペス・オブラドール次期大統領のプロジェクトや外交を多角化する姿勢への支持を表明し、同地

域で協力し合えば、秩序だった移住など様々なことを実現させることが可能だと述べた。

(4) また、会談後に行った記者会見において、エブラル次期外相は、ロペス・オブラドール次期大統領はラテンアメリカ・カリブ諸国と通商関係のみならず、政治分野においても共通の将来のビジョンを見いだしたいと考えていると述べた。

8 ロペス・オブラドール次期大統領とアジア太平洋地域各国駐墨大使の会談

30日、日本、オーストラリア、韓国、ベトナム、タイ、インドネシア、ニュージーランドの各大使及びマレーシア、フィリピンの各臨時代理大使が、政権移行事務所において、ロペス・オブラドール次期大統領を表敬訪問した。表敬終了後の記者会見において、エブラル次期外相が記者団に対して述べた会談の概要は以下のとおり。

(1) 本日の会談に参加した9カ国とメキシコは現在通商関係があり、順調な経済成長を続けている。これらの国々との関係はメキシコにとって重要。メキシコは貿易及び外交を多角化する必要がある。

(2) 本日の会談は未来のビジョン (Vision de futuro) を持つための会談であり、墨米関係だけではなく、ラ米やアジア諸国とも関係を構築することが重要であり、急速な経済成長を遂げているアジア諸国から技術革新及び開発や産業に対する国家の関与について学ぶことがあると述べた。

(3) 本日の会談において、ロペス・オブラドール次期大統領は次期政権における優先的なプロジェクトについて説明を行い、各国大使らにプロジェクトへの参加及び貢献を呼びかけた。各国が興味を示していたのは、防災に関するプロジェクト、テワンテペック地峡の開発、農業及び植林プロジェクト、エネルギー新技術、技術革新等の分野に関するプロジェクトであった。

(4) (記者からの質問に応じて) 日本によるメキシコへの貢献、特に防災分野での協力に感謝している。自分 (エブラル次期外相) は、1986年に日本で開催された防災に関するセミナーに参加したことがある。日本は国立防災センター (CENAPRED) の設立に協力している。本年10月に京都で開催される「科学者会議」に自身及び次期政権関係者が参加する予定であり、その機会に行われる二国間の対話にメキシコは参加する予定である。